

ふくい社会福祉

ふれあいネットワーク

10
No.385



温故知新 ～一途に社協道～



人との出会いを大切に

農家 麻王 伝兵衛 さん（あわら市）

我が家は兼業農家でしたので、両親は休日ともなると農作業に追われ、子どもも働き手として駆り出されていました。特にゴールデンウィークは稲刈りの手伝いをさせられ嫌な思い出しが残っていません。

2年間営業マン生活を送りましたが、何かが違うと感じ退職。一念発起して福井県園芸振興センターで研究生として半年間農業の基本から学びました。

育てる野菜を思案した結果、「越のルビー」に決めました。越のルビーは糖度が大玉トマトに比べて3～4度も高いことと、極めて栄養価が高いという点に注目しました。この野菜なら自信を持ってお客さんに勧められると直感。

販売については、研究生時代にお世話になった方からの紹介で公共の施設で休み時間を利用した野菜販売の許可をいただきました。その他にも地元スーパーが若手農家を支援しようと直売コーナーを設けてくれています。すべて、人とつながることによって実現したことです。

近頃、人と人とのつながりが減ってきていますが、残念なことだと思っています。ですから販売方法は、商売の原点である「行商」にこだわっています。ネット販売等流通網の発達で最近あまり見掛けなくなりますが、お客さんと直接対話ができ、野菜の評価を直接お客さんから聞けることは最大の財産だと思っています。また、対話から新たな出会いもたくさん生まれています。今は、営業マン時代以上の充実感を味わっています。



人と出会うことで元気や勇気をもらい充実した日々を送っています。今後は新たな野菜にも挑戦したいと思っています。

※「越のルビー」は、福井県出身の芥川賞作家津村節子氏が命名した福井県内で生産されるミディトマトのブランド名です。

表紙の企画について

様々な人たちの目線から「地域のつながり、人とのつながり」に関するメッセージをいただいています。



あなたの募金は、あなたの町へ。

～赤い羽根共同募金にご協力よろしくお願いします～

赤い羽根共同募金は、じぶんの町を良くするしくみです。

赤い羽根共同募金は、昭和22年（1947年）に、戦後の厳しい生活の中で、お互いに助け合って生きていこうという強い連帯感から始まりました。当初は、戦後復興の一助として、戦争の打撃をうけた福祉施設を中心に資金支援をする活動として機能を果たしてきました。

そして、65年以上たった今も、社会が大きく変化の中で、さまざまな地域福祉の課題解決に取り組む民間団体を支援する仕組みとして、ま

た、市民の優しさや思いやりを届ける市民主体の運動として、共同募金は地域や社会を良くしていこうとする福祉活動を支え続けています。

特に、近年では東日本大震災を始め、各地で起こる地震・風水害などの自然災害や子ども達が被害者となる痛ましい事件など、防災や治安といった事柄も、今や、行政のみならず住民みずから参加し、地域全体で支えていくことが活動面でも資金面でも必要となってきました。

赤い羽根共同募金は、資金ニーズを把握してから募金を集めるしくみです。

地域のさまざまな福祉ニーズを把握してから募金を行う「計画募金」という方法をとっています。これは他の募金には見られない共同募金だけの特徴です。

福井県では今年、一億八千八百八拾

二万七千円を目標額に掲げ募金運動を実施します。この目標額は、福祉団体やNPO等の資金ニーズや市町社会福祉協議会が実施する地域福祉活動に必要な資金の計画を集約したものです。

地域で集めた募金は、集めた地域で使われます。

募金の70%は、あなたの町を良くするために使われています。また残りの約30%はみなさんの住んでいる

市町を越えた、より広域的な課題を解決するための県域の活動にも活用されています。

もしもの時にも赤い羽根は使われます。

募金額の一部を毎年「災害等準備金」として積み立てられており、災害発生時には、災害被災地で速やかに支援活動が行われるようボランティアセンターの開設・運営のための資金として、また被災した福祉施設

設の復旧に使われます。昨年は、この「災害準備金」の拠出により東日本大震災での災害ボランティアセンターの設置や運営経費に役立てるなど緊急の支援に役立てられました。

多くの義援金で被災地に貢献しました。

東日本大震災
義援金にご
協力いただき
ありがとうございました。



福井県は十一億千五百九拾五万円（8月末現在）もの義援金が寄せられ被災地に全額送金させていただきました。

1 じぶんの町を良くする活動に (一般募金)

94,773 千円



地域の福祉課題を解決するために住民自らが参加し自分の町を支えていく活動など各市町の社会福祉協議会や福祉団体等の活動を支援します。

2 福井を良くする活動に (一般募金)

38,000 千円



認知症の方や家族の支援や小児癌と闘う子ども達を支える活動、障がい者の雇用をつくる活動など、広く福井県内で活動する NPO やボランティアグループの活動を支援します。

3 災害ボランティア活動に (一般募金)

5,400 千円



大規模災害が発生した際の災害ボランティアセンターの設置・運営に役立てられます。

4 歳末たすけあいに (地域・NHK 歳末たすけあい)

43,654 千円



新たな年を迎える時期に、支援を必要とする人達が地域で安心して暮らすことができるよう地域の福祉を応援します。

今年の目標額	181,827,000 円
◎一般募金	138,173,000 円
◎地域歳末たすけあい募金	33,654,000 円
◎NHK 歳末たすけあい募金	10,000,000 円

～赤い羽根ステッカーは 無料で提供します。～

被助成団体は、共同募金の助成を受けた証明として必ず、助成標識（赤い羽根ステッカー）を表示しなければなりません。

ステッカーは無料で提供しますので事務局までご連絡ください(TEL0776-22-1657)

じぶんにも じぶんの町も良くする クーポンできました。



福井県共同募金会では小売店の消費拡大と地域福祉を目的に「赤い羽根じぶんの町を良くするクーポン券」の冊子を発行します。

このクーポン企画は 500 円以上寄付された方へ、県内 150「寄付がじぶんの町に役立つ」だけではなく、クーポンをたくさん使うことで、じぶんの町のお店を元気にするのにも役立つ。お客さんにとっては、ひとくちの寄付で何倍もの割引のあるお買い物を楽しめるという企画です。

本年度、中央共同募金会のモデル事業として採択され、県内全域に拡大し来年 3 月末まで実施します。

今年のポスターでは、「あなたの募金は、あなたの町へ。」をキャッチフレーズに、「じぶんの町を良くするしくみ。」という赤い羽根共同募金の特徴をもう一度分かりやすく伝えていきます。赤い羽根のマークが町にたくさんあふれるこのポスターやステッカーを、助成先のみなさんに協力していただいていて、実際に募金が使われた活動の現場に貼ってもらうと効果的です。募金してくれた人は、じぶんの町の中、生活の中で赤い羽根マークを見つけることで、「あ、私の募金はここで役立つ」

今年のポスターで伝えたいこと

「なんだ。」と実感してくれるからです。「全国の人が赤い羽根の存在に気づき、募金するアクション」「関係者が赤い羽根ステッカーを町に増やしていくアクション」このポスターとステッカーがそのきっかけになってほしいと思います。

あなたの募金は、あなたの町へ。



赤い羽根共同募金

10月1日～12月31日 申込先: www.akaihan.or.jp

災害に強い福祉施設づくりのための経営者セミナー & 「福祉施設防災マネジャー養成研修」の開催

県社協では、地震など様々な自然災害に対する、①福祉施設個々における防災対策強化のための取り組みへの支援、②発災時における種別の枠を超えた相互協力、支援に向けた枠組みづくりの研究の2本を柱とする“社会福祉施設における災害対策支援プログラム”を昨年度策定し、今年度からこの一環として、「災害に強い福祉施設づくりのための経営者セミナー」および「福祉施設防災マネジャー養成研修」を開催しました。今回は、これらを受講された方々の声を一部ご紹介します。

★災害に強い福祉施設づくりのための経営者セミナー

【期日】平成24年8月9日（木）【会場】福井商工会議所

本セミナーには、県内の福祉施設経営者80名が参加し、災害時における利用者および職員の安全をはじめ、利用者に対する支援が切れ目なく行われるよう、あらためて福祉施設における災害対策の重要性を再確認する機会となりました。

当日は、新潟県長岡市に拠点を置く（福）長岡三古老人福祉会の法人総務局長 近藤和義氏から、「福祉施設における災害対策について」をテーマとする講演をいただきました。

2004年の中部地震などで経営する福祉施設を被災者の避難所として開放した話もあり、「地域貢献は社会福祉法人の使命」、「災害時はお互い様の気持ちを忘れず、支援し合うことが大切なこと」など、災害発生時における福祉施設の役割について指導いただきました。

受講者の声



近藤氏の講演の様子



特別養護老人ホーム 愛寿苑
苑長 小川 弥仁さん

今回のセミナーの事例等を通して、災害時における社会福祉法人としての使命、地域の高齢者福祉の拠点としての役割をあらためて考えることができました。今後、平常時から地域自治会等とのつながり、災害種別と規模に合わせた事業継続に関する取り組みを、ソフト・ハード面から計画的に法人全体で進めていきたいと思っています。



（福）かすみが丘学園
理事長 本多 奥右衛門さん

日常の安全・安心確保に追われながら、年二回の火災訓練を実施してきましたが、東日本大震災は自然災害への備えの必要性を痛感させられました。

今回のセミナーはこうした状況に応えるものであり、ハード・ソフト両面の検討を行ない、具体的対応策に結びつけていきたいと思っています。そして、自施設の利用者・職員を守るとともに、大規模施設として他施設の被災障害者にも役立つ体制づくりを目指したいと思っています。

★福祉施設防災マネジャー養成研修

【期日】平成24年9月4日(火)、5日(水)、11日(火) 【会場】福井県中小企業産業大学校他

本研修は、福祉施設において防災等の取組を推進する人材の養成を目的とし、県内の福祉施設職員 73名が受講しました。

研修は3日間の日程で行われ、災害時における利用者への支援や福祉施設の役割、ボランティアとの連携・協力、平常時における福祉施設の防災対策、事業継続に向けた施設の防災対策に関する講義や演習を通して、防災対策(体制等)の強化や発災時における利用者等に対する継続的な支援の調整・確保を行っていくための知識、手法等を学びました。

受講者の声



いなやま保育園
園長 稲山 久子さん

想定外の災害が世界のいたるところで発生している中、大切なお子様を預かる保育園の園長として、大変意義深い研修でした。常日頃から気になっていたこと、疑問に思っていたこと、さらには全く気付いていなかったことにまで及んで教えて頂き、まさに目からうろこの三日間でした。

今後は、教えて頂いたことをもとに、防災対策マニュアルを先ずは再検討し、園の職員は勿論、保護者全員で防災に対する意識を共有できるように徹底していきたいと考えております。



認定 NPO 法人 災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード 野田氏および安井氏による講義・演習指導



グループ討論の様子



福井市南消防署の指導のもと心肺蘇生・AEDの処置活動を行う受講者



NPO 法人 レスキューストックヤード 浦野氏による講義



(福) 光道園
事務局総務二課 主任 榮 晃彦さん

防災対策の基本として『自助 共助 公助』の連携が大切ですが、今回の研修で東日本大震災の経験を元に自らを振り返ると、準備不足や想定外の甘さが露見します。実際の広域大規模災害では機能しない、現在の防災マニュアル等々……。

研修後、早速ではありますが当園の防災計画の見直しを始めており、手始めに被災直後の災害時行動マニュアルおよび全職員等の安否確認方法の改定を進めています。



特別養護老人ホーム 第3和上苑
生活相談員 玉川 優子さん

災害の報道を見ると私はどんな行動がとれるのかと不安な気持ちになります。今回の研修では平常時のように支援するための基礎を教えてくださいました。24 時間 365 日の支援体制をとるために防災対策・安全確保のマニュアルを周知徹底し、誰もが安心して暮らせる地域に結びつく施設となるよう災害時の対策を再確認なくてはとえます。



特別養護老人ホーム 湖岳の郷
生活相談員 四本木 宣弘さん

災害が発生する前に防災対策をすることで、少しでも多くの命が助かるなら…。命を預かる福祉施設に勤める私にとって重要な研修だと思い参加しました。

命を守るだけでなく、その人の生活を継続させる上で重要な、地域やボランティアとの相互的な協力関係、そのために、地域とも手を取り合い、お互いが防災に対し真剣に考えていかなければと思いました。



(福) 足羽福祉会 法人本部
主任 安田 昌浩さん

未曾有の災害に対し「法人として備えなければならないことは何か」を追究すべく研修に臨みました。

最大の気づきは「日頃からの地域との関係性づくりがいかに大事であるか」という点でした。現在、各施設の防災委員とともに「事業の継続」といった観点からの検討を進めていますが、地域貢献を含めて具体的に協議する必要があると感じました。

本セミナー、研修内容について詳しく知りたい方は 福祉サービス支援課 (TEL 0776-24-2347) までお問合せください。

災害時社協ネットワークをどう活かす!?

北陸3県内社協災害支援活動合同研修

去る9月5日、「東日本大震災」発災直後から半年間にわたって、岩手県陸前高田市等での支援活動に関わった北陸3県内社協職員82名が一堂に会し、大規模災害時に機能する社協の重層的なネットワークのあり方を探る初めての合同研修会を石川県金沢市で開催しました。

被災地社協の“声”を聴く

研修はまず、日本福祉大学の原田正樹先生と、現在も被災地での復興支援と地域福祉活動に懸命に取り組む岩手県陸前高田市社協の岩淵恵子事務局次長との対談からスタートしました。



対談の様子

岩淵次長からは、一部の役員や法人機能を喪失した発災直後から、組織基盤の整備、地域のつながりの再構築やサロン活動などを通じた生活支援活動の基盤が整うまでの状況のほか、現在策定中の社協の中期ビジョンが職員の目標共有と意識改革を促す重要なツールになっているとの報告がありました。

関しては、「被災地社協」職員の心に寄り添う」ことの必要性や互いの信頼関係づくりを前提にした活動期間の設定等についても課題提起がありました。

その一方で、普段は異なる地域で活動する社協がネットワークを組んで展開する支援活動は、経験知の少なかつた現地の社協職員に地域福祉活動の本質や実践のノウハウを伝える貴重な機会になっていたこと、また「シャキョウ」という共通項を土台に活動の目的や目標をすぐに共有できたなど、社協ネットワークの強みを実感できたとの話もありました。

社協ネットワークの強みを具体化する

対談後は、「災害時に機能する社協の重層的なネットワークの姿」を探るためのワークショップを展開しています。

ワークショップでは、事前課題であった『社協はなぜ災害支援活動



に関わるのか」という根本的なテーマについて「なぜなぜ分析」の手法を用いて参加者間で共通認識づくりを進めました。

そして、ワークショップⅡでは、現地での活動期間を3つの局面に分けて、現地での具体的な支援の内容とその意図やねらいなどを棚卸しながら、「社協ネットワークの強みを活かすための教訓」の抽出も行っています。

活発な意見交換を行う参加者



最終プログラム（総括講義）では、原田先生から「社協は住民の暮らしを守るためにあるか」「社協は人のつながりをつくられているか」という課題提起もあり、改めて日頃の地域福祉実

践のあり方や災害時に機能する社協ネットワークづくりの重要性を互いに確認する機会となりました。

この研修は、来年度以降も継続し、成果の積み上げに取り組んでいきます。



勝山市社協主事

久永 優子さん

[現地活動]

平 23.4.2～9 /
平 23.6.26～7.3

“社協”でつながれる凄さを体感!!

どんな時も過去を振り返る大切さと未来に夢や希望を抱く大切さ。改めて、普段の仕事の重要さを確認しました。



坂井市社協主事

北川 珠江さん

[現地活動]

平 23.7.16～23

災害時も日常も社協として市民から求められていることは同じだと感じました。いかなるときも市民の「ふだんのくらしのしあわせ」を一緒に考えていける社協マンでありたい、そして北陸3県に同じ思いの仲間が沢山いることがとても心強かったです。



高浜町社協事務局次長

河牧 剛さん

[現地活動]

平 23.6.11～18

今回のプロジェクトに感謝します。想定を超える災害で、県・市町社協による支援活動を検証する良い機会でした。「社協同士のつながり」「住民の信頼」を再考したいと思います。

地域福祉の実践をさらに強化するために

～会長会としての要望事項を提出～

平成24年9月6日（木）、福井県市町社会福祉協議会会長会では「地域福祉施策への要望書」を清川代表幹事（県社協会長）より小林県健康福祉部長に提出いたしました。県民の暮らしのセーフティネットを充実し地域に根ざした福祉の実践をさらに強化するために、きめ細かい施策が継続的に実施できるようオール社協のネットワークを活かした地域コミュニティの「絆」を再構築する「地域福祉」の基盤整備について要望したものです。

県に要望した内容は次のとおりです。

- 1 福井県地域福祉支援計画（第2次）の策定について
- 2 地域における権利擁護体制整備の推進について
- 3 生活福祉資金制度における相談員の継続配置について
- 4 市町や日常生活圏域における地域福祉の推進について
- 5 社会福祉協議会による法人後見受任体制整備について



福井県健康福祉部長室にて

ご案内

福祉事業所の皆様へ

福祉サービス 苦情解決機能強化セミナー

本セミナーでは、事業所における苦情解決機能をサービスの質の向上、利用者との信頼関係を深めるものとして捉え、利用者等からの効果的な「思い」の引き出しやその適切な対応等について深めていただきます。是非ご参加ください。

日時 平成24年11月16日（金）13:30～16:30

場所 福井県自治会館 2F「多目的ホール」

対象 苦情受付担当者、苦情解決責任者、第三者委員

内容 ●基調報告（福井県運営適正化委員会）

「県内福祉サービス事業所における

苦情解決の取組状況について」

●講義（講師：クレーム処理研究会主宰 川田 茂雄 氏

「クレームこそチャンスだ

～CS（顧客満足）に基づくクレーム対応～」

費用 受講者1人につき、2,500円（資料代）

メ 切 本セミナーへの参加を希望される方は、10月12日（金）までに、下記事務局に所定の用紙にてお申込みください。（申込多数の場合は、先着順とさせていただきます。）

【お問合せ、お申込み先】

「福井県運営適正化委員会事務局」

TEL (0776) 24-2347 / FAX (0776) 24-8942

寄贈・寄附

誠にありがとうございました。

9月7日（金）

株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ
北陸支社 様（金沢市）
NPO法人モバイル・
コミュニケーション・ファンド助成
50万円



9月11日（火）

松原 紘子 様（福井市）
寄付金 300万円



社会福祉事業の発展のために活用させていただきます。

第59回福井県社会福祉大会・平成24年度「つながれボランティアの輪」推進運動主要事業

ふくい・ つながり フォーラム 2012



平成24年**10月13日**土 13:00~16:00

場所: 福井県生活学習館ユー・アイふくい「多目的ホール」他
(福井市下六条14-1)

主催: 社会福祉法人 福井県社会福祉協議会
「つながれボランティアの輪」エコキャップアート実行委員会

どなたでも、どのプログラムからでも
参加できます!! 参加費無料!!

プログラム

12:00	13:00	14:00	14:15	15:30	16:00
受付	【式典】 第59回福井県 社会福祉大会式典	休憩	【講演&トーク】 「陸前高田の被災状況と今、 そして復興へ」	【フィナーレ】 エコキャップアート コンテスト表彰式 他	閉会

12:00~
エコキャップアートコンテスト作品展示・東北応援コーナー・つながる体験コーナー

【ゲストスピーカー】岩手県陸前高田市市長



と ぼ ふ と し
戸羽 太 氏

1965年、神奈川県足柄上郡松田町生まれ。東京都町田市育ち。東京都立町田高卒。会社員を経て1995年4月から陸前高田市議を務め、2007年3月に助役に就任。その後副市長を務める。2011年2月の市長選に初出馬、初当選を果たした。

市長就任直後に東日本大震災により壊滅的な被害を受け、復興に向けた新しいまちづくりを進めている。一日も早く被災者の生活再建を図るとともに、全壊した市街地や被災地域の復興はもとより、地域産業の再生と発展を目指し、市民が安心して暮らし、働くことのできる新しい陸前高田市のまちづくりに全力をあげて取り組んでいる。



当日参加された方には、つながりの
証としてシリコン製リストバンド
「つながりリング」を進呈!!



お問い合わせ

【事務局】 社会福祉法人福井県社会福祉協議会 福祉のまちづくり推進課

〒910-8516 福井市光陽2-3-22 TEL 0776-24-2339代 FAX 0776-24-0041 E-mail volunt@f-shakyo.or.jp